

# 米兵による少女性暴力事件に抗議し、 植民地支配を拒否・基地撤去を求める抗議声明

嘉手納基空軍兵長ブレノン・ワシントンは、昨年12月に公園にいた16歳未満の少女に卑劣な誘拐暴行事件を起こしたにもかかわらず、そのことを日米は半年も隠ぺいした事件である。7月12日にはじまった那覇地裁で犯人のブレノンは無罪を主張、12月13日の懲役5年とした那覇地裁判決を不服として同日控訴した。

私たちはこの犯人の悔いどころか厚顔無恥な「無罪」主張に怒りを禁じえなかったが、その上、即日控訴したということに、米兵らの沖縄の少女・女性たち・沖縄県民への人権無視・弾圧の植民地支配に満腔の怒りで抗議する！

この事件で少女が受けた苦痛は計り知れない。自傷行為を繰り返し、睡眠薬なしでは眠れなかったという。さらに犯人の控訴によって事件を引きずらせ、世間に晒されることになり、傷口に塩をこすり付けるようなものである。人としてこれ以上、放置すべきではない！

また、米軍準機関紙「星条旗」は17日、米空軍嘉手納基地第18航空団司令官のニコラス・エバンズ准将がインタビューで、沖縄県内で相次ぐ米兵による暴行事件について「（地域との）関係の小さな一側面だ」と述べ、事件について「心から遺憾に思う」との声明を発表したが、一方、声明の中では「日米同盟を支えるため、沖縄で名誉ある任務に就いている何千もの米軍兵士の価値観を反映したものではありません」と発言した！「小さな側面」とは沖縄県民の人権を無視し、あまりに馬鹿にした発言ではないか！許しがたい！

沖縄人の年端も行かない少女を手籠めにして凌辱し、居直る米兵や米軍は、80年前に沖縄に乗り込んできて、沖縄人から土地を奪い、人々を蹂躪して来た軍事植民地下の意識そのものである。これらは「日米安保」「日米同盟」の優先政策をとる日米の政策に由来する。そして、その沖縄を犠牲にした日米安保体制・不平等な地位協定は、70%以上もの圧倒的米軍基地を沖縄に押し付け、軍事優先の沖縄支配で沖縄の人々の安心・安全な暮らしは危険にさらされ続けてきた。さらにそのことを圧倒的日本国民は支持しているのである。沖縄の島々を軍事要塞化し、新たな基地建設が強行されている現状に身を挺して抗議し続けている沖縄の叫びを日本国民は何と考えるのか！圧倒的日本国民の沖縄差別に私たちは抗議する！

犯人の米兵は直ちに控訴を取り下げ、少女に謝罪せよ！

日米は沖縄から基地を撤去し、土地・空・海を直ちに沖縄に帰せ！

沖縄は、これ以上の犠牲は御免被る。

2024年12月22日

沖縄・相次米兵による性暴力事件に抗議し、基地撤去を求める東京行動  
沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック